

平成30年12月20日

保護者の皆様へ

世田谷区立玉堤小学校

PTA会長 岩崎 博史

文化厚生委員会家庭教育学級 出雲崎あゆみ

平成30年度 第3回家庭教育学級 講演会 報告書

12月3日に第3回家庭教育学級を開催いたしました。今回は、講師に原潤一郎氏をお招きして『子どものやる気スイッチをオンにする親子コミュニケーションとは?』というテーマでお話ししていただきました。

「そもそもやる気って何ですかね?」という原先生の問いかけから始まりました。やる気は、テンションとモチベーションに分けることができると言われています。

【テンション系】→自分で上げることができるが上がりやすく、下がりやすい。

【モチベーション系】→静かだけれど、ワクワクしながらやる気が長続きする。

今回はテンションよりモチベーション系のやる気をどのように上げるか、についてお話を伺うことができました。

最初に2枚のプリントが配られ、1枚目はかけ算の問題が1問でしたが2枚目をめくるとそこには100問のかけ算が!それを見た瞬間に会場からどよめきが起こりました。

普段子どもに「勉強しなさい」「宿題しなさい」と親は声掛けしがちですが、目的もなくモチベーションを上げて取り組むことの難しさを実感しました。

具体的な事例として、原先生がある母親から「勉強のやる気を上げさせてください」と頼まれたKちゃんの話をしていただきました。

先生はKちゃんに「勉強しなさい」とは一言もいわず、「将来の夢はある?何かやりたい仕事とかある?」と聞いたところ、Kちゃんは目をキラキラさせて「将来は雑貨屋さんになりたい」と話し出しました。先生が「来週までにどんな雑貨屋にしたいか、お店のレイアウトなどを描いて」と伝えると、次の週にはレイアウトなどを20枚位描いて来たそうです。

将来の夢を実現させるためには、勉強も必要だと自分で気付き、英語や算数などの勉強を頑張るようになり、メキメキと勉強ができるようになったそうです。

グループワークでは何種類もの感情を表す、先生考案のピットインカードを使用して自分の感情に近いカードを選んで話し合いました。校長先生も入ってくださり、いろいろなことを話し合いながら各グループが盛り上がりました。



笑いあり、新しい発見ありの楽しいグループワーク



伸びをしながら落ち込むのは難しいです!

講演会の後半ではアドラー心理学にも触れて話していただきました。

【原因論】

1. 悪いところを見つける → 2. なおす → 3. 上手くいく

【目的論】

1. 悪いところの反対のことを見付ける → 2. 指摘する（褒める） → 3. 指摘したことが増える
(例えば、わがまま⇔思いやり)

原因論は、悪いところを見付けることから始めるので、あまり良くないと思われるかもしれないけれど、例えば選手とコーチという信頼関係がある中で、コーチングを受ける側に高い成長意欲がある場合は、原因論の方が良い場合もある。

つい子どもの悪いところばかりが目についてしまうけれど、産まれたばかりの頃を思い出して、赤ちゃんの頃はどんなに小さなことでも喜んでいたように、たし算思考で♪

また、一つの例えとして、シャンパンタワーの絵を使って話していただきました。

1番上が自分として、2段目が家族や友人、3段目が世の中。自分が満たされてハッピーになることによって心に余裕ができて話を聞いてあげられる。先生のお勧めは幸せのハードルを下げて、プチハッピーをたくさん集めること！ 日常にハッピーは転がっています。

周りの人の中にもシャンパンタワーはあります。子どもたちの上のグラスを言葉掛けや働きかけで満たしてあげましょう♪



参加者の声

- ・日々、育児の大変さに行き詰まっていたので、お話を聞いてハッとさせられることが多く、とてもためになりました！ 自分のグラスを満たし、子どもたちにプラスの言葉をどんどん掛けようと思えました。
- ・話が分かりやすく、とても楽しいひとときでした。
- ・子どものモチベーションを上げるため、子どもにどんな大人になりたいかなど聞いてみたいと思いました。目的論の反対のことを見付けるのを直ぐにでもやってみたいと思います。とても勉強になりました。

原先生の講演の内容は、家で直ぐにでも実践できる内容が多く、子どもの顔を思い浮かべながら、先生の話をお聞きでき、グループワークも楽しく、あっという間の2時間でした。

*8月に発行された先生の著書「魔法のピットインカード」を本校に寄贈いただきました。PTA室に置いてありますので興味のある方はぜひ読んでみてください。

*****今年度も家庭教育学級の活動にご協力ありがとうございました*****